

第6回災害対策本部会議議事録

日時：平成23年3月14日（月）11：30～12：30

（官房長官記者会見（福島第1原発3号機の爆発関連の生放送）を視聴）

○原子力対策班：福島原子力発電所事故の状況を説明。

第1原子力発電所については、緊急事態宣言が出されている2号機の水位は安定しているとのこと。第2原子力発電所については、1、2、4号機に緊急事態宣言が出されている。このうち1号機については、冷却系の機能の一部が回復したとのことだが、これ以上の情報がないため、安全な方向に向かっているかどうかは不明。

本県の対応については、1号機が爆発してから放射線の監視体制を強化した。北茨城市役所に可搬型モニター装置を設置し、10分置きに確認している。3号機の爆発後も値の変化はない。パトカーが到着次第、環境監視センターのモニタリングカーが北茨城市に向かい、北茨城市内の県境を隈無く移動してモニタリングを行う。

なお、放射線は風下方向に向かうが、現在の発電所周辺の風向は北西の風、風下は南東になる。

○危機管理監：続きまして、計画停電への対応状況について、各部から報告をお願いします。

○総務部長：県庁舎の非常用発電の対応となるが、燃料の残量が100kl、1日3時間の計画停電となると、およそ45ないし60時間分、およそ15日分となる。今後は燃料の確保が課題であり、極力燃料を節約することで対応する。非常用発電機は2台稼働しているが、1台に制限して燃料の節約を行う。水戸合同庁舎については非常用発電機を持っており、県庁舎と同様。エレベーターは使用停止、警備は人的警備に切り替える。

○企画部長：茨城空港については、名古屋便が計画停電の時間帯に当たるが、空港の自家発電により対応することになると、チェックインについて実験したところ、時間が約2倍かかることがわかったため、航空機の運航の定時性が損なわれるおそれがある。自家発電で稼働が不可能な機器がいくつかあるため、必要に応じて自家発電で利用可能な機器を入手して対応を検討しなければいけない。また、NTTに要請し、エアライン各社等が関係機関との連絡に必要な中継局に電気が行き渡るように対応が取られている。

I B B N（いばらきブロードバンドネットワーク）については、NTTとの調整が完了し、電源車により電気の確保が行われている。

○生活環境部長：放射線監視センター及びオフサイトセンターについては、非常用発電で対応可能。

○山口副知事（保健福祉部）：急な話だったので、昨夜は連絡に追われた。医療機関の場合は急に（電気を）止められると非常に困る。今朝までに第1グループについて全部手配

が終わったところで、急に停電しないことになってしまったため、現場は非常に混乱している。特に医療機関においては、人工呼吸器、透析器、在宅医療の方の医療機器が使用できなくなる。自家発電装置に必要な燃料等や電源の確保に全力を挙げている。

- 医療対策課長：医療機関等に対してFAX及びメールにおいて周知している。
- 農林水産部長：県北家畜保健所の鳥インフルエンザやBSEの検査体制については、計画発電の時間帯を避けて検査をする必要があるため時間がかかる。漁業無線局については、自家発電で対応する。
- 土木部長：大雨時に河川の水位が増水した場合、あるいは道路のアンダーパスが水没した場合に、ポンプを使って排水することになるため、燃料調達が問題となる。また、交通事故の危険性が増すので注意喚起が必要。
- 企業局長：停電によるポンプ停止によって送配水管内の水が抜けたり、水が濁る。浄水場の回復手順に従った作業が必要となるため、回復に時間がかかり、安定供給ができなくなる。施設が広域的に存在するために、停電時間がこのように異なると、システム全体がむちゃくちゃになってしまう。また、市町村にも影響を与えるため、かなり大変なことになる。少なくとも早めに計画停電の時間を伝えてもらいたい。また、部分部分で時間をずらされると手の打ちようもないので、よろしくお願ひしたい。
- 病院事業管理者：計画停電の期間中は非常用電源、自家発電で対応することになるので、重油の確保に特別な措置をしていただかないといけない。一般電源から非常用電源に切り替えるためには、コンセントを差し替えて医療機器の再起動が必要となる。短時間の停電が頻繁に発生すると非常に危険が及ぶことが考えられる。非常用電源にだけ接続しておくで重油の使用が非常に嵩むことになるが、検討しなくてはならない。非常用電源の電気量には限界があるので、電気量を配慮して稼働させる機器とそうでない機器を峻別しなければならないので、現在その検討を行っている。
- 教育長：本日8時に学校等に対して適切な対応を行う旨第1報を連絡した。
- 警察本部長：街灯が消えてしまうため、犯罪やトラブルの増加が懸念される。火災の発生に対する警戒活動等。また、特異的なものとしては東京電力に対する皆さんの思いというのが積もっていくと怖いかなど。鉄道関係の混乱を心配している。交通関係では信号機滅灯の関係（を心配している。）運転免許センターの免許更新事務は現在停止中。土木部からもあったが、交通事故に対する注意。県警も同様に自家発電用の燃料の確保をしっかりとやっていかなければならない。
- 東京電力：この度は観測史上最大規模という未曾有の震災で施設が被害を受けており、皆さんに大変な心配と不安をかけていることを深くお詫び申し上げたい。まずは設備の復旧、電気の送電を行う必要がある。最新の停電件数については、11時現在、13万8千件あまりということで、かなり少なくなっているが、いまだ北茨城市で2万3千件、高萩市1万3千件、東海村1万6千件ということで、県北の方で電気が復旧しきれていないが、なんとか本日中には復旧の見込。原因としては、送電線の故障の修理が終わっ

ていないということと、一部高圧の配電線に断線が無いかどうかの確認作業が残っている。これらを踏まえて本日中にはなんとか復旧の見通し。

供給力の大幅な不足に伴い、本日からお願いをしている計画停電について、本日午前中については需給のバランスが確保できたため、第1G及び第2Gについては、計画停電は実施しない。今後、第3G以降については、需要の立ち上がり等を見極めながら適切な時期に実施の有無を早めに判断して調整させていただきたい。

- 燃料調整班：計画停電に伴い、医療機関等で燃料が不足する懸念から燃料確保の要望が強く出されている。保健福祉部と連携して何とか手配できるよう鋭意努力を続ける。災害復旧活動に伴う公用車等の燃料確保については、現在、県内8箇所のサービスステーション、ガソリンスタンドに協力いただいて、緊急車両専用の給油所ということで運用していただいている。これらの利用については、庁内各部の皆さま、市町村の給水、道路復旧等の関連の車両、電気通信事業者（NTT等）、JR、日本赤十字社等のライフライン関係の指定公共機関、指定地方公共機関の災害対策用の車を中心に燃料の供給を図ってまいりたい。
- 生活衛生課：各市町村の給水状況については、給水車、タンク併せて110台が現在活動している。自衛隊及び他縣市からの応援車両が41台出ている。県内141箇所の給水ポイントで給水している。復旧に向けて何が必要か各市町村に問い合わせをして、資材等の要望があったので、関係部局等と調整しながら1日も早い復旧に向けての対応ということで準備を進めている。
- 福祉指導課：応援物資の要請のあったのは古河市、守谷市、稲敷市、小美玉市を除いた44市町村中40市町村である。県備蓄分については、県西地区の防災活動拠点ほか各合同庁舎等10箇所に保管しているが、初動段階から随時支給しており、現在在庫が大変少なくなっている状況である。現在、最終の配分の調整を行っているところ。本日から雨が降ることが見込まれていることから、ブルーシートについて要請が出てきており、その配分の準備をしている。
県の防災協定に基づいて要請している。現在、企業の方から水・食料その他について支援いただいている。大きな企業だと、被災地が多方面に渡り、また、交通事情により配送に時間がかかるという問題がある。この他にも随時、一般の方及び企業の方から支援したいということで、どこに何を持って行ったらよいかという情報が寄せられているので、その対応をしている。
- 危機管理監：各部で説明事項がありましたらよろしく申し上げます。
- 山口副知事（保健福祉部）：人工透析については、一部マスコミから人工透析可能な病院リストの公表の希望があったが、広報するとそこに集中してしまっかえって混乱してしまうということで、人工透析の懇話会の会長とも相談の上、あえて広報はしない。患者さんというのは決まっている方であるため、その病院同士、あるいは医師同士で融通していただく。資機材等不足するものについては、県の方と調整しながらやる。テレビ

のテロップで広報している県もあるが、本県としては混乱を防ぐため、公表はしない方向。

ヨウ素剤については、ヨウ素カリウム丸が55万、これは大人の27万6千人分だが、その半分を福島県に提供している。ヨウ素カリウム粉末については6,500g、子どもの13万人分ということで、こちらは3万人分提供している。

○農林水産部長：食糧の関係で精米に関して週末から14市町に配分した。精米はまだ1,580kg残っているのですが、保健福祉部などと協力しながら要望のあるところに配分していく。リンゴについても、本日さらに水戸中央青果さんから申し出があったので、現在取りまとめをしているところ。その他食糧・日用必需品の供給依頼について、商工労働部と連名で県内の商工会及び商工会議所、量販店などに在庫などの販売について協力依頼を出す。

○土木部長：急傾斜地について、今日一部報道であったが、水戸協同病院の南側に15mの斜面があり、崩壊の危険性があるということで、約50世帯に避難指示が出ている。今日国土交通省の研究機関の方から専門家が来て安全性と復旧工法について検討することになっている。大洗港区については、沈没漁船の引き揚げ作業を今日から行っており、今日の分の燃料はあるが、明日の分がない。

○企画部長：茨城空港は本日から再開している。本日運航はスカイマークと春秋航空。アジアナ航空は欠航となっている。空港ビルは未だ天井板落下の危険性があるため、1階の一部と2階の全部について立ち入り禁止としている。当分の間、入場制限をかけたいと考えている。空港アクセスについては、バスが運行しているが、東京直行バスについては走っていない。

J-PARCについては、16日まで立ち入り禁止となっていたので状況がよくわからなかったが、本日企画部の技監が外から目視したところ、かなりの被害が出ている。J-PARCの職員にも話を聞いたが、最悪の場合、向こう2～3年使用できない可能性があるという報告があった。

○総務部長：議会について、本日開催予定の常任委員会は開催しない。残っている4つの委員会の審査については、16日から最終日22日午前中までに終了させる方向。明日、議会運営委員会があり、その中で明日の本会議、あるいはこの後の予算特別委員会をどうするかについて決定される予定。

なお、明日の議会運営委員会終了後、執行部から災害対策の状況について説明し、意見交換をする場を設定される予定だが、詳細がわかり次第、また報告する。

○危機管理監：自衛隊から給水の支援を受けている。市町村から給水だけじゃなくて、後片付け等のリクエストが出てきている。自衛隊と調整して活動範囲の拡大をお願いしていきたい。今の自衛隊の状況について説明をお願いしたい。

○自衛隊施設学校長：はじめに自衛隊の活動状況について説明する。災害派遣人数について精査したところ、現在1,500名の隊員が茨城県内において活動している。昨日の

活動で成果があった事項として、給水については、17市町村に対して180,400Lの給水を実施している。給食については、2市町村に対しトータルで2,570食の炊き出しを実施している。

本日の活動予定については、昨日とほぼ同様、引き続き倒壊した家屋等における搜索確認、給水、給食をそれぞれ支援する。給水については25市町村（前日比+8）、給食については3市町村（前日比+1）の活動を予定している。

なお、県からのニーズについては逐次伺っているので、調整させていただいてできるところから逐次やっていく。

- 知事：先ほどからテレビで放映しているように、また水素爆発が起きたということだが、モニタリングポストは東海村に3つあるのか。2つ持って行ってしまったのか。
- 原子力対策班：可搬型のは東海村に3つ置いてあるが、センターに予備が1つある。その予備の1つを第一便で持って行った。今から東海村に置いてあるのも回収する。
- 知事：それは持って行って、それと、モニタリングカーは何台あるのか。
- 原子力対策班：1台である。
- 知事：1台しかないのか。
- 原子力対策班：1台だけである。事業者も確認したが、モニタリングカーは福島に行っているとのこと。
- 知事：今も（テレビで）やっているが、火が見えているというのと、物の落下が1回目と少し違うとか様々なことを言う人もいるから。固定型の可搬型のやつを3つなら3つきちんとスウィーパーする。（放射線は）上手にキャッチできるようにしておいて欲しい。もう1つは計画停電で、いろいろ対応も必要だと思う。節電をどうやるかということについて、もう少し積極的に特に市町村に、もちろん県民全般に呼びかける。市町村を通して（節電を）徹底するようにやっというて欲しい。
水は電力が来ればすぐ（送水）できるのではないよな？
- 企業局長：3時間から5時間ぐらいかかる。企業の方も対応が大変。
- 知事：それは計画給水？
- 企業局長：そうです。だいぶ回復してきたが、最終的に迷惑かけてしまうのは新治浄水場である。回復するまで1週間程度かかるため、ペットボトル等で対応するしかない。その他の浄水場は一両日中には回復する。
- 知事：備蓄物資は県の方も底着くだろうけども、いろいろこれから提供してもらうものについて、どこがどのように不足しているか上手く把握しながら本当に不足しているところに配ってもらえるように。きちんと見定めながらやっていくように。
それから、ヨードは何時間保つのか。
- 病院局長：蓄積するので、効果は長い。
- 知事：1日2日くらいか。
- 病院局長：もっと効果は持続する。

- 知事：それではなんかあったらまず服用すればよいのか。5時間とか10時間で効果がきれるわけではないと。わかった。
- 先ほどの食糧のところ、農業は何故書いてないのか。全農は。
- 農林水産部長：米は実際にはJ Aグループの中で全農が出している。
- 知事：米以外は。
- 農林水産部長：米以外はかんしょがあるかもしれないが、あとかりんとうも出している。
- 知事：燃料については、先ほどある程度報告があったが、全体的な総量の確保について、上月副知事から。
- 上月副知事：まず必要な量がどこに何があるのか把握しなければいけない。重油と軽油と灯油とガソリンがあるが、油種ごとにどれぐらいの量が必要なのか。燃料が入ってきたとしてもフルには入ってこないの、どこを優先して配るのかということをよく考えなければならない。昨日やった感じでは。今はガソリンと軽油があるから、先ほど報告があったとおり、パトカーとか給水車といったところから給油している。需要の情報を一元化したほうがよいので、私のほうで情報をまとめて石油業者と詰めたい。
- 知事：政府の方でも計画停電を早く出し過ぎてしまって今混乱しているようだ。まずはどのくらい節電できるかについて取り組まなければならない。政府の方でも朝5時の記者会見で初めて官房長官が初めて節電を呼びかけている。災害対策本部ではどこでやるのか。広報班か、情報班か、これに関する情報をきちんと流すように。
- 病院局長：計画停電に伴い、水の供給が不安定となると、医療機関が混乱する可能性がある。3時間ごとの停電で水の供給が不安定になるという話を聞いているので、そのへんをはっきりしないと病院としても困る。病院だけではないが。
- 知事：病院には貯水槽はないのか。
- 病院局長：貯水槽はある。
- 知事：貯水槽に水を貯めていけば対応可能だと思うが。
- 知事：被災地はどこも同じであり、病院だけ送電し続けるわけにはいかないだろう。非常用の電源があれば大丈夫なのか。
- 企業局長：うちの方は自家発電でどうにかなるレベルではない。
- 知事：送水ができないから病院だけあってもダメなんだな。
- 企業局長：貯水槽を常に満水にしてもらえば、数時間、場合によっては1日2日もつ。市町村が上手に運用をやってもらわないと。いつも水を満水にしてもらって節制してもらう必要がある。
- 知事：企業局から市町村に通知したらどうだ。濁っている水の対応も含めて。
- 企業局長：市町村で上手にやってもらわないと回らないので、企業局で徹底させる。
- 知事：特に緊急対応についてだな。
- 企業局長：企業局に給水車があるので、いざという時は病院専用で送るようになる。
- 山口副知事（保健福祉部）：ブロック単位、例えば鹿行地域で停電になってしまうと、大

きな病院は自家発電で対応できるが、診療所にはそのような設備がないので、停電になるとアウトだという声が聞こえてきている。例えば1つの市で3つに分かれているのであれば、診察できる病院に行けばよいが、ブロック単位で停電すると、行ける病院がない、あるいは遠くの病院まで行かなければならなくなる。

- 知事：計画停電の区分は送電線の関係か。
- 東京電力：石岡変電所で供給しているが、送電線単位でしか制御できないため、どうしてもその地域は1つのブロックで停電エリアになってしまう。申し訳ないが。
- 知事：それは仕方ないが、昨日もドクターヘリの要請があったが、それで急場をしのぐとかしかない。ただどちらにしても重大な問題が生じるので、東京電力も節電をどこまでできるか、電車だったら間引き運転するとか、企業もなんかしてもらおうとか、そういう形で20%減らせばなんとかなる。冷房、暖房は使わないとか。このままいったら混乱が生じる。いろいろ節電のやり方があるのにきちんと議論は尽くされているのか。慌てて急遽節電の呼びかけを始めたみたいだけでも。このような意見があったということを書いておいて欲しい。鹿島火力はいつ頃から操業開始するのか。
- 東京電力：まだ見通しが立っていない。先ほどの省エネを皆さんにお伝えしていくかという話だが、従来から節電のお願いをやってきたところ。今回は供給力が脱落してしまった中で、実に数十年ぶりの計画停電の実施となったため、ドタバタしてしまったのは事実だ。いずれにしても今後も需給調整契約、夏期の割引等を拡充しつつ、節電のお願いした上で、計画停電ということになる。皆さんからの報告にもあったとおり、やはり早めに時間帯含めて計画停電をお願いするときはお願いし、実施の有無についても早めに連絡することが必要だと思う。そのようなところは改善しながらやっていくので、理解と協力をお願いしたい。
- 知事：昨日の発表でも来月いっぱい計画停電をやるとのことだが、これをやったら日本経済は無茶苦茶になる。冷暖房の使用を控えるとか、電力需要のピーク時を抑えればだいぶ楽になると思う。そういうことも含めて思い切って考えないと。
- 東京電力：できる限りのことをやっていきたい。
- 知事：節電の徹底をいろいろなところで呼びかけるように。
- 危機管理監：第6回の本部会議を終了します。